

# あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

台風と大雨による被災地の皆さまに心からお見舞い申し上げます。10月も後半となり、やっと秋の気配が感じられるこの頃、如何お過ごしでしょうか。

さて小松島市は、散歩の範囲に港がある町です。今回は、天気の良い日の小松島市の日赤病院前から、港へ向けての30分程度の散策です。①レンガと石積みの洒落た水路沿いを歩き、②SLモニュメントがある公園脇を進み、③木陰の遊歩道を、④大狸のいる広場を越えてズンズン行って、まっすぐ「ドンドン」歩きます。信号交差点を越えともう港です。立派な街路樹、風の吹く公園を通り過ぎると、やがて、陸と海の境にあるウッドデッキに到着します。

ここでグルッと周りを見ると、船あり、造船所あり、防波堤あり、対岸には和田島、後方に日の峰と、(個人的には) ちょっとだけ寂寥感を伴った、いい雰囲気の間道だと気がつきます。風の吹く公園、みなとオアシスなど付近を散策すると、自然と一体に上手く計画されて、適度に人の手が入り、でも時間の経過と共に変わりゆく空間が持つ良さを色々発見できると思います。私は風の吹く公園で立派な木を見つけました。

皆さんが見つけたものを教えてください。

令和元年10月23日 小松島港湾・空港整備事務所長 小田 幸伸



## STU48号 徳島小松島港に初寄港！！

9月18日、船上劇場STU48号が徳島小松島港本港地区に初寄港しました。当日のセレモニーでは初寄港の記念として、後藤田徳島県副知事、濱田小松島市長がSTU48の旗を振り、記念盾を贈呈して歓迎の意を表しました。また、徳島県出身のSTU48メンバーである三島遥香さんが代表として挨拶をされ、瀬戸内の良さを全国や世界に発信できるグループを目指していきたいと意気込みを語っておられました。

セレモニーには、沢山の来賓(当所の小田所長も招待されました)、県や小松島市の関係者が参加し、その後披露された船上パフォーマンスでは大変盛り上がりしました。パフォーマンスの舞台となる船上劇場は、ステージと客席の距離が近いこともあり、エネルギッシュで迫力のある歌とダンスはそのまま彼女達のひたむきさ、真っ直ぐな思いを私たちに伝えてきました。寄港当日の夜には県内外から集まったファン約300人が船上コンサートを楽しみ、小松島の町を賑やかにしてくれました。

※STU48とは、Se-To-Uchi(瀬戸内)が由来の、瀬戸内エリアを本拠地としているアイドルグループ。

劇場船STU48号の船上劇場にて、歌やダンス、トークで構成される公演を各港で行っています。



迫力のある船上でのパフォーマンス



挨拶をされる三島遥香さん(徳島県出身)





## 地元の海岸をきれいに ～横須松原の育樹活動～

横須から金磯にわたる海岸には江戸時代に植えられた松の大木が1km余り続いていましたが、30年ほど前から松食い虫の被害を受け、わずかに残った松が点在するだけになっていました。そこで、横須海岸の東端の約270mの土地を提供してもらい、多くの団体や市民ボランティアの協力を仰ぎながら、生徒や職員で2ヶ月かけて整地し、平成11年2月20日に松の苗木を500本植樹し、以降、生徒会が中心となって参加者を募り、育樹活動(草刈り・水やり・清掃等)を行うようになりました。

今年度の松原育樹ボランティアでは日本財団の「海と日本PROJECT」と連携し、活動を行いました。さらには、国土交通省小松島港湾・空港整備事務所、NPO法人などの支援を受けながら、港の町小松島の活性化や環境美化に向けた取り組みも続けています。

今後は自然や地域を大事にしていくことを私たちがPRしていくことも課題だと考えています。これからもご協力よろしくお願ひします。

執筆者：徳島県立小松島高等学校



活動場所



懸命に雑草を刈る生徒達

## 港お仕事取材 ～クルーズ船が来る裏側で～

皆さんは港に携わる仕事についてどれくらい知っていますか?本コーナーでは、港に携わる方々の仕事について数回に分けて紹介します。今回は、昨今話題のクルーズ船寄港にあたり、奮闘している徳島県県土整備部運輸政策課港にぎわい振興室のお仕事について、詳しく教えて頂きました。

### Q1 クルーズ船寄港にあたっては、どのようなお仕事をされていますか?

A 私たちはクルーズツアーを行う船社や旅行会社に徳島県の魅力をPRしたり、クルーズ船が寄港する際の岸壁での受け入れ準備や寄港当日におけるお出迎え・お見送りイベントを運営する等、クルーズ船の誘致から寄港当日の対応に至るまで、様々な仕事をしております。

### Q2 船社や旅行会社にクルーズ船誘致を行う際、具体的にどのようなことをするのでしょうか?

A 国内外の船社や旅行会社に赴き、徳島県の観光地やツアーの候補地、特産品を紹介したり、受け入れ可能な岸壁や中心市街地までの交通アクセス等を伝え、徳島県に少しでもクルーズ船が来てもらえるようにセールスをしています。また、観光地やツアーは「徳島ならでは」のものが求められ、特に阿波おどりや鳴門の渦潮、最近では大塚国際美術館が人気です。

### Q3 ポートセールスで苦労したことはありますか?

A 海外へセールスに行った際、海外から見て徳島県の認知度はまだまだ低いと実感させられます。また、歴史や文化体験を好んだり買い物を楽しむ等、お客様によって需要が異なるため、何を求めているのかを把握することがポートセールスを行う中で重要だと考えております。

### Q4 クルーズ船の受け入れ準備とは、具体的にどのようなことをしていますか?

A 当日のバスや警備、誘導員の手配に加え、テント、物販コーナーの設営、船のお出迎え・お見送りイベントの実施等をしております。

### Q5 クルーズ船対応で苦労したことはありますか?

A 港からの二次交通の確保や、外国人観光客の英語等での問い合わせに対して、スムーズに対応できないことに苦労することがあります。

### Q6 やりがいを感じたことや、今後の意気込みを教えてください。

A クルーズ船の寄港に当たっては、回数を重ねるごとに工夫を凝らし、ボランティアに連携をして頂いたり、学生に船内寄港式典の司会や物品の販売対応をしてもらっていました。また、市町村や関係団体の方からイベントのアイデアを頂いたり、様々な方々の協力を得ながら改善していき、少しずつ観光客の反応が良くなっていることにやりがいを感じています。今後も、市町村や関係団体等と連携し、クルーズ船の誘致やクルーズ船寄港時の受入れ体制を充実するよう取り組んでいきたいと考えています。



カラフルなテントでお出迎え  
販わう物販ブース



10月18日 MSCスプレンドィダ寄港  
阿波おどりでのお見送り

取材日：10月21日 取材先：徳島県 県土整備部 運輸政策課 港にぎわい振興室 取材者：小松島港湾・空港整備事務所 企画調整課



# こまぼんのなるほど！ みなと講座

～港湾・空港のことをもっと知っていただくために～



ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

## 港湾工事現場レポート 徳島小松島港沖洲(外)地区

徳島県と東京、北九州をつなぐフェリー航路を有する徳島小松島港沖洲(外)地区では、現在、港内に進入する波を抑え、船舶による安定的な荷役、船舶の安全な航行・接岸のために必要となる防波堤の150m延伸工事を行っています。今回は、当事務所の工事担当の仕事について紹介します。

### 現場の声 小松島港湾・空港整備事務所 保全課

当課では、港の将来計画に基づいて岸壁や防波堤の工事を発注し、工事現場の監督を行っています。

仕事内容は、デスクワーク6割、現場監督4割です。デスクワークでは、工事に関する発注資料を作成したり、関係する利用者や徳島県などと調整をしています。また現場では、受注した工事業者が、安全に作業しているか、使用材料は決められた品質を満たしているか等の監督をしています。特に安全に関しては重要で、「つまづかないように現場の整理整頓ができていないか」等の些細なものから、「落下防止のフックを適切に付けているか」「作業機械や吊ワイヤーが点検されているか」等まで確認し、事故が起こらないように努めています。

沖洲(外)地区は、オーシャン東九フェリーや南海フェリー、LNG(液化天然ガス)の運搬船や貨物船等、多くの船舶が行き交う港のため、事前に安全に配慮した計画を立て、利用者と密に調整しながら進めています。今年の1月末に防波堤のケーソン(高さ約7mのコンクリートの箱)を大型起重機船により据え付けた時には、フェリー会社等と10分単位のスケジュール調整を行いました。その結果、事故無く施工を終えることができ、大きな安堵と達成感がありました。

今年度は、沖洲(外)地区の防波堤延伸にかかる消波ブロックの製作工事、築造工事、金磯地区で老朽化した岸壁の改良工事を実施しています。



## みなとって…知れば知るほど奥が深い！！～小松島港湾・空港整備事務所リクルート記録2019～

今年当事務所が関わったリクルート活動の一部について紹介します。

7月30日

### 四国地方整備局管内現場見学会

四国地方整備局では、国家公務員1次試験合格者を対象に、7月下旬～8月上旬にかけて管内の工事現場見学会を開催しました。(徳島県内は7月30日)

参加者は、徳島小松島港赤石地区において実際に目の前で輸入された貨物が運ばれている様子を見学し、物流を支える港の役割やその重要性について関心を寄せていました。見学後には「船や岸壁のスケール感を直接感じる事ができて良かった」「普段生活をしていて港と関わる機会は少ないので、航路の安全確保や空港の整備、海岸や港湾事業等の詳細を聞いて良かった」等、港に対する印象の変化についても口にしていました。

また、就職を間近に控えていることもあり、組織内の女性職員の割合や就業形態等といった、職場としての働きやすさに対する質問も多数受けました。



赤石地区で港湾の役割等の説明を受ける参加者

9月4日

### 夏期実習生視察

四国地方整備局では、夏期実習生として土木を専攻する大学生を受け入れており、9月4日に実習生が徳島県内の港湾を視察しました。視察当日は、老朽化した岸壁の維持管理の課題や、地震に強い岸壁とその他の岸壁との構造的な差異といった、土木専攻の学生ならではの視点からの質問がありました。

また、「クルーズ需要の増加や港の賑わいづくり等、岸壁を整備した後も効果的に利用していくことを考えなければならないので、奥が深いと思った」という感想を口にしていました。



職員(手前)の説明を聞き、海上から視察するインターン生(奥)

社会・経済を支え、地域の活性化に資する港湾の役割、その重要性の一端を肌で感じて頂けたのではと思います。将来、港に関係する職業に就いてもらえればうれしい限りです。

## 夏休み最後に親子で徳島小松島港を探検！ ～今年もサマースクールを開催～

8月25日に徳島市沖洲マリナーミナルを会場として、海について学び、体験する「みなとサマースクール」を開催しました。(県の運輸政策課、沖洲海浜楽しむ会と共催)

当日は、夏休み中の親子連れ約30名に参加して頂き、当所が所有する港湾業務艇「ひのみね」に乗って徳島小松島港を海上から探検したほか、和田島の「ちりめん」の中に混じっている様々な海洋生物を探し出す「わだじまモンスター」に挑戦したり、海をきれいにする船の見学、海に関わる仕事を紹介するコーナー等、海について学ぶコンテンツが盛りだくさんでした。

また、徳島小松島港を海上から探検した子どもたちは、普段は見るできない海からの景観に目を輝かせ、「あれ何?」「これ何?」と指差しながら、好奇心が全開となったようで本当に楽しそうでした。丁度、東京行きのオーシャン東九フェリーの出港と重なり、間近で見る長距離フェリーの大きさには参加者から驚きの声が上がっていました。

乗船後のアンケートでは、「港のこと楽しく学べて良かった」「港についてとても興味を持った」「子どもを通して良い経験ができた」等、子供だけでなく、保護者の皆さまからも沢山の感想を頂きました。

今後も地域のイベントやクルーズ船寄港時等、様々な機会に徳島小松島港を海上から探検する予定です。詳しくは、事務所ホームページに「みなと見学会」と称して事前に開催案内を掲載しますので、是非ご覧ください。



オーシャン東九フェリーと遭遇



港湾整備をわかりやすくまとめたパネルの展示も行いました

## とくしま豆知識

皆さま、いつも「あわみなと通信」をご覧になって頂き、ありがとうございます。さて、この秋号より当事務所職員が持ち回りで、徳島の歴史、文化、おすすめスポット等についてご紹介する新しいコーナーを設けました。皆様には、徳島の魅力を再発見して頂ければ幸いです。今回は、旧国鉄の小松島線についてご紹介します。

小松島線は、かつて徳島県小松島市の中田駅から同市内の小松島駅までを結んでいた日本国有鉄道の鉄道路線であり、本港地区には南海フェリーが就航していたため、鉄道連結拠点として大いに賑わっておりました。また、国鉄路線として、日本国内で最も営業キロが短い路線として知られておりましたが、1985年に全線が廃止となりました。

なお、廃線跡は小松島市中田駅跡地の小松島ステーションパークまで遊歩道として整備されており、遊歩道脇の中継信号機に、当時の面影を見ることができます。

副所長 高尾 俊輝



1985年 小松島線運行最終日(小松島市提供)

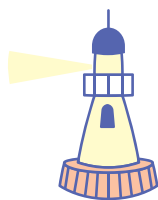


中継信号機

## 出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みなと学習、環境学習、防災学習)を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所 TEL **(0885)-32-3357**

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」  
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>  
よりお問い合わせください。